

農業高校におけるGLOBALG.A.P.認証の取得状況

平成29年12月

農林水産省

農業高校におけるGLOBALG.A.P.認証取得状況

・GLOBALG.A.P.認証を取得している農業高校は5校。

- 青森県立五所川原農林高校は、今年度、新たにメロンの認証を取得。
- 北海道士幌高校は、にんにくとにんじんの認証を取得(両品目は有機JAS認定を取得済)。
- 北海道岩見沢農業高校は、米、たまねぎ等の9品目の認証を取得。
- 京都府立木津高校は、京都府内では民間も含めて初めてGLOBALG.A.P.認証を取得。
- 京都府立農芸高校は、トマトの認証を取得。

(平成29年12月時点での各校からの聞き取り)

高校名		品目
1	青森県 五所川原農林高等学校	平成27年度からりんご、平成28年度から米の認証を取得 本年度は、メロンの認証を取得
2	北海道 士幌高等学校	本年度初めて、にんにくとにんじんの認証を取得
3	北海道 岩見沢農業高等学校	本年度初めて、9品目(米、大豆、たまねぎ、トマト、にんにく、長ねぎ、スイートコーン、ほうれんそう、さつまいも)の認証を取得
4	京都府 木津高等学校	本年度初めて、荒茶の認証を取得
5	京都府 農芸高等学校	本年度初めて、トマトの認証を取得

(平成29年12月時点での各校からの聞き取り)



←【五所川原農林高校】
メロンの認証審査
(圃場審査)

【士幌高校】→
にんにくの認証審査
(圃場審査)



←【岩見沢農業高校】
9品目の認証審査
(書類審査)

農業高校におけるGLOBALG.A.P.認証の取得に向けた取組状況

- ・本年8月に公募された「第2回国際水準GAP認証取得支援事業」を活用し、愛媛県の農業高校4校がGLOBALG.A.P.の認証取得に向けて取り組んでいるところ。
- ・また、この他にも、認証取得に向けて、複数の農業高校が前向きに検討中。

■第2回国際水準GAP認証取得支援事業（農林水産省）を活用し、GLOBALG.A.P.認証取得に取り組んでいる農業高校

	高校名		品目
1	愛媛県	伊予農業高等学校	米（平成30年度に認証審査予定）
2	愛媛県	<small>たんばら</small> 丹原高等学校	ぶどう（平成30年度に認証審査予定）
3	愛媛県	<small>かわのいし</small> 川之石高等学校	柑橘類（清見オレンジ、デコポン、ポンカン） （平成30年3月に認証審査予定）
4	愛媛県	南宇和高等学校	柑橘類（河内晩柑） （平成30年3月に認証審査予定）

（平成29年12月時点での各校からの聞き取り）

■その他、GLOBALG.A.P.認証取得に向けて検討中の農業高校の例

福島県立会津農林高校（米）、石川県立翠星高校（米）、長野県立富士見高校（水耕トマト）、
福岡県立福岡農業高校（みかん）など

（平成29年10月：文部科学省・農林水産省調査結果（集計中））

○人材育成効果

[青森県立五所川原農林高校]

- ・生徒の父親(りんご農家)の声「うちの息子は変わった。GLOBALG.A.P.を学ぶ前は、力仕事の手伝いだった。しかし、GLOBALG.A.P.を学んでからは一生産者として議論ができるようになった」
- ・農家出身の生徒はGLOBALG.A.P.を実家に取り入れて農業法人を大きくすると決心し、非農家出身の生徒も、大手市場のバイヤーや農業行政を目指すなど、GLOBALG.A.P.を自分の人生に生かそうとしている。
- ・GLOBALG.A.P.導入後は6割以上の生徒が農業関連産業に進路を定め、導入前と逆転した。

[北海道士幌高校]

- ・最初は手探りで何をやって良いのか全く分からなかった生徒達が一つ一つ課題を克服し、改善に向け粘り強く取り組んだ。2回目の審査では、説明や段取りなど対応全般で自信を持って行い、非常にスムーズに進行することができた。

[北海道岩見沢農業高校]

- ・教員の指示待ちが多かった生徒たちが、自発的に行動できるようになった。

(各校からの聞き取り)

○海外販売など新たな販売拡大に向けた挑戦

[青森県立五所川原農林高校]

- ①平成29年1月に、学校産のりんご「ふじ」を生徒の手で中国に輸出し、四川省成都市の伊藤洋華堂にて販売実習。平成30年2月にも実施予定。
- ②ANA国際線ファーストクラスの機内食で学校産の米を使用。
(平成29年12月～翌2月予定)(写真はANAのHPより)
- ③岩塚製菓株式会社の「味しらべ」に学校産の米を使用予定。

(写真は岩塚製菓のHPより通常の「味しらべ」)

[北海道岩見沢農業高校]

- ・平成30年2月に、海外消費者の評価を体験するため、香港の高級スーパーでの試験販売を予定。

(各校からの聞き取り)

